



令和4年度

学校評価

秋田県立秋田中央高等学校

目 次

教育目標・教育方針・重点努力目標

学校関係者、学校評議員

■各学年

- 1年部
- 2年部
- 3年部

■教科

- 国語科
- 地歴・公民科
- 数学科
- 理科
- 保健体育科
- 芸術科
- 英語科
- 家庭科
- 情報科

■分掌

- 総務部
- 教務部
- 進路指導部
- 生徒指導部
- 特別活動部
- 保健部
- 図書視聴覚部
- 研究部

教育目標・教育方針・重点努力目標

1 教育目標

人格の完成を目指し、自主的な活動をとり、友愛の心を持ちつつ理想を掲げて躍進を図る生徒を育成する。

2 教育方針

- (1) 豊かな人間性や社会性を育み、二十一世紀を逞しく生き抜く能力の育成に努める。
- (2) 自ら学び、自ら考え判断し、行動できる資質や能力の育成に努める。
- (3) 基礎・基本の着実な定着をもとに学力の向上を図り、個性に応じた進路希望の達成に努める。

3 目指す生徒像・生き方

高い目標を掲げて、主体的に考え方行動する生徒。

4 重点努力目標

- (1) 授業改善等による学力の保証と進路目標の実現。
- (2) 特別活動の目標の達成。
- (3) S S H事業のさらなる改善と発展（3期目をめざして）。
- (4) 学校業務の精選による働き方改革の実現。

（学校関係者、学校評議員）※敬称略

1	後藤 慎 隆	教育振興会会长
2	竹下 博 英	一交会会長、秋田県議會議員
3	森川 洋 平	P T A会長
4	加賀屋 満	一交会副会長、元秋田県教育庁総務課施設整備室室長
5	高橋 保子	秋田県教育庁高校教育課SSW、元本校副校長
6	戸島 義夫	秋田県バスケットボール協会医科学委員会副委員長
7	景山 貴志	秋田銀行ダイレクト事業センターシニアリーダー、元本校P T A会長
8	永吉 武志	秋田県立大学生物資源科学部アグリビジネス学科准教授

令和4年度 学校評価

学年部	教 科	分 掌
-----	-----	-----

- | | | |
|-------|---------|----------|
| ① 1年部 | ④ 国語科 | ⑬ 総務部 |
| ② 2年部 | ⑤ 地歴公民科 | ⑭ 教務部 |
| ③ 3年部 | ⑥ 数学科 | ⑮ 進路指導部 |
| | ⑦ 理科 | ⑯ 生徒指導部 |
| | ⑧ 保健体育科 | ⑰ 特別活動部 |
| | ⑨ 芸術科 | ⑯ 保健部 |
| | ⑩ 英語科 | ⑯ 図書視聴覚部 |
| | ⑪ 家庭科 | ⑳ 研究部 |
| | ⑫ 情報科 | |

秋田県立秋田中央高等学校

重点目標	(1) 高校生活を送るに当たり、基本的生活習慣を身につけ、自己管理能力を高める。 (2) 自ら進んで学ぶ学習意欲を喚起し、基礎学力の定着・向上を図る。 (3) 諸活動に主体的に参加し、協働して目標実現に向かう姿勢を養う。		
目標達成のための具体的な手立て(方法)	(1) 三点固定を徹底させ、生活リズムを確立させることで余裕を持った行動を自律的に行えるよう促す。また、日々の生徒の行動観察につとめ適切な助言・指導を心がける。 (2) 朝学習、週末課題への取り組みを徹底させ、その積み重ねを通じ基礎学力の向上をはかる。また、進路指導年間計画を生徒に徹底し、短期的・長期的ビジョンを持たせる。 (3) ホームルーム活動や学校行事、部活動等へ自ら積極的に参加するとともに、他との関わりを通じて皆で協働することの意義を考えさせる。	P	
目標達成により期待(予想)される生徒の変容の様子	(1) 基本的生活習慣が確立し、徹底した自己管理能力が身に付くことで、次年度へのスムーズな移行が可能となる。家庭学習の習慣が身につき、基礎学力の向上につながる。 (2) 「確かな学力」が身につくことで、進路目標の実現への見通しが立ち、さらなる発展的な学力向上が見込まれる。 (3) 何事にも主体的に取り組み、他者と適切なコミュニケーションを図りながら前向きに挑戦する姿勢と実践的な態度が培われる。		
具体的な取組状況	(1) 年度当初から、学年部全体で呼びかけ、学年フロアの巡回をおこなうことで着席、学習開始、黙食の徹底をはかった。また、昇降口での遅刻者への指導もおこなった。 (2) 定期考查前に「スタディショギング」を計画し、自学する習慣、学年全体での雰囲気作りに努めた。朝学習等を通じ、基礎的基本的事項の定着を図った。模擬試験前にはクラス一を通じての課題配信をおこなった。また難関大志望者を対象に「NKD Challengers」として意識付けと難易度の高い課題配信をおこなった。(28名参加中) (3) 学年スタート時に学年オリエンテーションで親睦を図り、その後の学校行事を通じてクラス色を出せるよう、積極的に働きかけた。	D	
達成状況	(1) ほとんどの生徒が活動の趣旨を理解し、時間・マナーを守り生活できている。一方で家庭学習開始時間の固定、学習時間の確保が課題である。 (2) 与えられた課題への取り組みは良好であるが、それ以上の自発的な取り組みができる生徒が少ない。思っていても行動に移せない生徒が多いのが残念である。 (3) 他者との協働作業を厭わず、積極的に行動する姿勢が見られた。		
自己評価	(評価) B	(1) 生徒たちへの積極的な働きかけができた。 (2) 学習意欲の喚起、継続した学習に向かわせる、さらなる仕掛けが必要である。 (3) 生徒間の大きなトラブルもなく、クラス活動をおこなうことができた。	C
評価基準	↑ A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない ↓ C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者の評価と意見	(評価) B	・主体的な学習習慣の確立を目指し、さらなる取り組みを。 ・高校生としての自覚が芽生えるよう工夫している。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	・これまで身についたよい生活習慣を堅持し、学習意欲の向上、主体性をもつた取り組みができるよう進めていきたい。 ・新課程入試にも対応できる「確かな学力」の保証を目指し学年部で取り組んでいきたい。	A	

重点目標	(1) 充実した学校生活を送るために、基本的な生活習慣の確立を引き続き重視すると共に、自己管理力の更なる向上を図る。 (2) 自己認識を深めて具体的な進路目標を設定し、自主的かつ意欲的に学習に取り組む姿勢を身に付けさせる。 (3) 自分の行動や役割に責任をもち、他者との協働を通して、共に高め合う集団を育成する。
------	--

目標達成のための具体的な手立て(方法)	(1) ホームルームや授業等での日常的な声かけを通して、生徒自身が集団生活のルールを守る大切さを理解し、適切な行動ができるよう働きかける。行動観察や面談等で生徒の理解に努め、学年スタッフで情報を共有し、支援が必要な場合は連携して対応する。 (2) 進路行事を計画的位置付け、その指導を通じて将来の展望をもたせる。定期考查や模試の結果から各生徒の課題を見つけ、教科面談等を通じて具体的な指導を行う。成績上位者のグループを作り、切磋琢磨し合う環境を与える。学習時間調査で生徒の学習時間を可視化し継続的な学習の励みとする。 (3) ホームルーム活動や学校行事、SSH活動等を通して、仲間との協働を意識するよう働きかける。SSH探究活動を通して、生徒が問題解決に継続して取り組み、達成感を得られるよう支援する。
---------------------	---

目標達成により期待(予想)される生徒の変容の様子	(1) 自律的に生活する力が向上し、充実した学校生活を送ることができる。 (2) 個々の目標に沿った学力が定着すると共に、学年全体で粘り強く進路実現に向かう雰囲気が醸成される。 (3) 何事にも主体的に取り組み、他者と適切にコミュニケーションを図りながら前向きに挑戦する態度が培われる。
--------------------------	---

具体的な取組状況	(1) 学年集会等での全体指導に加え、担任を中心とした個別面談を適宜行い、各生徒の学校生活や学習に対する実態及び課題に寄り添った指導を行った。 (2) 確認テストや英単語選手権等、各教科が工夫して生徒の学習意欲を喚起した。定期考查前にスタディジョギングを実施し、学年全体で学習する雰囲気を作った。難関大チャレンジプロジェクトを実施し、上位層の育成を図った。 (3) 各学校行事が順調に実施された。多くの制限や課題に対応した上で、3年ぶりに関西方面への修学旅行を実施することができた。SSH事業では分野別課題研究に取り組み、各グループで協力して探究活動及び発表する場面を設定した。
----------	---

達成状況	(1) 大きなトラブルは無く、概ね良好な学校生活を送っているが、健康管理や登校時間の遵守及びタブレットの使い方について課題が見られる生徒がいる。 (2) 一過的な学習ではなく、日々の学習を積み重ねるという点で課題が多い。 (3) 各行事を通じて、上位学年としての自覚や他者と協働する姿勢が育ってきた。
------	--

自己評価	(評価) B	諸行事がほぼ予定通り行われ、それを通して生徒の学校生活への意欲や主体性を喚起することができた。一方で、進路意識を高め、学習に継続して取り組ませる方策がさらに必要である。
------	-----------	--

- ↑ 評価基準 ↓
- A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 - B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 - C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者の評価と意見	(評価) B	生徒一人一人の進路意識の向上と学習の振り返り等の定着を図ってほしい。3年ぶりに修学旅行が実施てきて良かった。来年度は是非ともAを。
-------------	-----------	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善	進路意識の向上が継続的な学習姿勢に繋がるものと捉え、進路指導部等と連携し、学年全体で情報共有して各企画に取り組む。学校生活のルールの遵守を改めて喚起し、学年全体で進路実現に向かう雰囲気の醸成を進める。
----------------------	--

重 点 目 標	(1)最高学年としての自覚を持たせ、諸活動を協働的に取り組む態度を養う。 (2)進路目標の達成に向けて、自主的・継続的に努力する姿勢を養う。 (3)社会で活躍するための精神的成长と自立への支援をする。	
目標達成のための具体的な手立て(方法)	(1)授業や学校行事を通して、集団の一員として最高学年としての自覚と責任のある言動ができるように促す。 (2)Classi の学習時間記録を習慣化し、自己管理能力を高める。成績上位者のグループを作り、互いに切磋琢磨できる状況を作る。平日講習を開催し、学力向上と意識を高める。考查前対策を企画し、幅広い層に定期期考查の支援を行う。HRでの面談を重視し、生徒の能力と特性の把握に努める。 (3)進路に関する講演会や主権者教育などのキャリア教育を通して、社会人としての基盤を作る。	
目標達成により期待(予想)される生徒の変容の様子	(1)集団のリーダーとしての自覚が身に付き、中央生としての「繋がり」を強め、充実した学校生活を送ることができる。 (2)学年全体で学習意欲が高まり、学力が向上する。計画的に学力を高めることで、最後まで粘り強く進路目標に挑み続けることができる。 (3)自立することへの不安が和らぎ、社会人としての責任感がさらに強くなる。	
具体的な取組状況	(1)学年集会を定期的に実施。6月「受験生になるために」、7月「夏休み、受験の天王山」「推薦総合型入試ガイダンス」、9月「受験の勝負はここから」、1・2月「進路決定者集会」「これから受験本番を迎える皆さんへ」等その時期に必要な指導を行った。 (2)7月と1・2月に「進路検討会」を実施した。全生徒の志望校判定や学力状況を確認し、学年全体で指導にあたった。共通テスト対策として平日講習、定期考查に向けてスタディジョギングを実施した。 (3)駿台による推薦総合型入試対策講座(面接・志望理由書)、看護出前講座、秋田県立大学説明会、G・P・S解説会、消費者教育講座、年金セミナー等、生徒の実情に合わせた講演会を数多く実施した。	
達成状況	(1)学年全体で進路目標に向かう雰囲気を概ね作り上げることができた。だが、一人一台タブレットの使用状況については不適切な使用も多くあり、課題である。 (2)三者面談前に進路検討会を実施することで、学年の先生方全体で全生徒の状況が把握でき、一人一人の生徒をきめ細かく指導できた。 (3)各講演会を通じて、生徒の目標に向けた主体性や積極性、また社会人としての姿勢が育つてきている。	
自己評価	(評価) B	生徒一人一人の進路実現に向けて、学年部で情報を共有し組織的に取り組んだ。また生徒が自ら考え、進路目標達成に向けて主体的に行動できるようになってきた。
↑ 評価基準 ↓	A:具体的な活動がなされ目標を達成できた B:具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C:具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
学校関係者の評価と意見	(評価) A.	定期的な学年集会、進路検討会、各種講演会の実施等、生徒の学力向上と進路実現に向けた取り組みは十分評価できる。
自己評価及び学校関係者評価に基	○学力向上と進路対策は今後も進路指導部と連携し、引き続き取り組んでいく。 ○一人一台のタブレットの使用方法について、課題が残る。次年度に向けて他学年と連携しながら、モラル、マナーの指導が必要である。	

重 点 目 標	(1)予習・復習を主体的に行い、自分で文章を読解する姿勢を培う。 (2)文章読解に必要な基礎事項の定着をはかり、文章を的確に読解し評価する力を育成する。 (3)自分の考え方を論理的に表現する力を育成するとともに、相手の考え方を尊重し理解する力を高める。
---------	--

目標達成のための具体的な手立て(方法)	(1)予復習・課題の取り組み状況を確認し、必要に応じて再提出を促す。 (2)・小テストや演習により基礎的事項を繰り返し確認する。 ・文章の図式化や本文への書き込みにより全体構成を把握させる。 ・文章の内容を要約し、評価して文章にまとめさせる。 (3)・グループワーク・話し合い・発表を通して根拠を明確にして自分の考え方を述べさせる。同時に、相手の考え方を理解し尊重しながら評価させる。
---------------------	--

目標達成により期待(予想)される生徒の変容の様子	(1)主体的な学習が習慣化し、自分で文章を理解する姿勢が培われる。 (2)基礎事項が定着し、文章を正確に読解し評価する力が育つ。 (3)自分の考え方を論理的に表現する力が育つとともに、相手の考え方を尊重し理解する力が高まる。
--------------------------	--

具体的な取組状況	(1)従来の予習プリントの実施やノート提出に加えて、学年によりタブレットによる課題の配信を行い、家庭学習の定着を試みた。 (2)漢字・古語・文法の小テストの実施においても、従来のやり方に加え学年によりタブレットで実施した。 (3)ICTを活用し他者の意見に触れる・意見を集約する等の一助とした。ペアワーク・グループワークにより考え方の深化を図った。
達成状況	(1)・(2)ともに意欲的な取り組みと定着には個人差がある。 (3)ICTの活用は授業者にとっては利便性が高い反面、生徒の力の伸びに繋がっているかについては今後検証が必要である。

自己評価	(評価) B	生徒の読解力や表現力、基礎的事項を覚える力が年々低下していると感じる。ICTの活用も定着しつつあるが、その検証を踏まえ、効果的な方法を模索していく必要がある。
------	-----------	---

- ↑ A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 ↓ 評価基準 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 ↓ C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者の評価と意見	(評価) B	ICTの活用や、課題を与えて取り組ませるなど、指導を工夫している。生徒の意欲と取り組みに個人差があることから、検証と打開策を期待したい。
-------------	-----------	--

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	○「読む・書く・考える」の基本の徹底と、ICTの活用の両立を図り、効果的なあり方の検証を進める。 ○授業での課題設定や発問を工夫し、生徒の思考力・読解力育成に努める。 ○適切な評価を行い、生徒の学習意欲の喚起に努める。
-----------------------	---

P

D

C

C

A

重 点 目 標	(1) 現代社会の諸問題と授業内容とを関連させ、生徒が主体的に探究できる授業づくりに努める。 (2) 習得した知識を活用し、さらに深化させるとともに他者と協働して学び合い、自身の考えを表現する力を養う。 (3) 一人ひとりの進路目標の実現に向け、大学入学共通テスト実施も踏まえて確かな学力を保証できるような授業改善を行う。
---------	---

目標達成のための具体的な手立て(方法)	(1) 新聞等を通して現代の諸課題に気づかせ、授業内容を関連づけて展開する。また、問題を多面的にとらえるために、諸資料を収集、活用する機会を提示する。 (2) 発問の工夫、I C T 機器の活用を通して授業改善をはかり、個人で考え、グループ内で共有し、発表させることで、授業内の言語活動を活発にする。授業に参加する姿勢、プリントや考査問題の記述内容などによって検証する。 (3) タブレットを活用して復習の徹底をはかり、基礎的・基本的事項の定着をはかる。また、開かれた授業作りを目指し、教員間で互いに意見を交換するような機会を設ける。
---------------------	---

目標達成により期待される生徒の変容の様子	(1) (2) 共通 社会人として役立つ知識やものの見方、思考力、表現力等を身につけることにより、変化する社会に対応できる人間となる。 (1) 生徒が授業内容に対する興味関心を高め、積極的に参加するようになる。また、現代社会の諸事象に対する関心が高まり、課題を見し解決方法を探るうとする姿勢が身につく。 (2) 学びの中から、新たな疑問点を見いだし、探究しようとする姿勢が身につく。結果、深い理解へつながり、自らの考えを他者に伝わるように発信できる。 (3) 自ら調べ主体的に学習することで、理解が深まり、知識が定着する。校外模試での SS50 以上が 60 %、同 60 以上が 15 %を超える。大学入学共通テストでは全国平均を上回る。
----------------------	---

具体的な取組状況	(1) タブレットを用いて情報の収集・分析をおこなった。 (2) クラスで共有できるような言語活動を伴う授業となるよう努めた。 (3) タブレットを用いて予め学習課題を伝えたり、復習できる環境を作るとともに、自学できるような課題の配信をおこなった。
達成状況	基礎基本の定着度が低く、数値目標を達成することができなかつた。また、時事的問題への関心を高める工夫、深い学びにつなげていくための工夫がさらに必要である。

自己評価	(評価) B	(1) 生徒の実情に応じた組織的な対応・支援ができた。 (2) 学習意欲を喚起する取組がさらに必要である。 (3) 各活動の見通し、振り返りの方法に工夫が必要である。
------	-----------	---

↑ 評価基準 ↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者の評価と意見	(評価) B	入試向けの内容だけでなく現代社会のニュースも教えてくれている。自分の問題として主体的に学んでいくような指導をさらに充実させてほしい。
-------------	-----------	--

自己評価及び改善策	主体的な学びを後押しするような指導の工夫にさらに磨きをかけたい。	
-----------	----------------------------------	--

重 点 目 標	(1) 生徒が主体的に考え、自ら課題解決に取り組む授業を実践することで、生徒の数学に対する意欲・関心を高める。 (2) 3学年に渡った系統的な指導の実現を目指して、科内の情報交換を活発にし、教師個々の指導方法の改善を図る。 (3) 平素の学習を通じて基礎・基本を身に付けられるように、自主的かつ計画的な家庭学習習慣を生徒に定着させる。	P
	(1) お互いの授業参観を積極的に行い、指導法の共有や改善策を話し合うことで、各自の授業力向上とICT機器の活用を実現する。 (2) 科会を定期的に実施することで、学年間で情報や資料を共有し、指導計画や評価基準について科内のスタンダードを構築する。 (3) 数学の基本事項の理解や計算力向上のため、朝学習や小テストを実施する。週末等に課す学習課題に関しては、生徒の取り組み状況を丁寧にチェックし、必要に応じて個別指導を行う。	
目標達成のため具体的な手立て(方法)	(1) 授業を見たり、見られたりすることで、教師側に新たな刺激と緊張感が生まれ、授業改善が推し進められる。そのことにより、生徒への働きかけと新たな試みが増え、生徒の学習意欲・関心が高まる。 (2) 他学年の指導状況を全員で把握することで、科としての一貫した指導方針・指導法が形作られる。生徒に対しては、年度や担当者に依らない指導が行われ、安定的に学力が向上する。 (3) 生徒が基本事項を確実に身に付けることで、問題の解法を積極的かつ多面的に考えられるようになる。そして、課題解決における数学の有用性に気付き、数学的な考え方を活かせるようになる。	D
	(1) 今年度は研究授業は行わなかった。1年生においてデジタル教科書を有効に活用することができた。 (2) 科会の機会は少なかったが、学年間で情報や資料を共有し、指導計画や評価基準について科内で統一することができた。 (3) 朝学習や小テスト、週末課題を定期的に行うことができた。	
達 成 状 況	(1) デジタル機器を活用するなど新教育課程に合わせた指導方法を取り入れながら授業を効果的に進めることができた。 (2) 指導計画や評価基準について科内で統一することができた。 (3) 朝学習や小テスト、週末課題を通して生徒に適切な指導を行うことができた。基礎基本の徹底をはかったが十分に定着したとはいはず、まだまだ数学的な考え方を活かせるようになってはいない。	C
自 己 評 価	(評価) B 各学年において指導改善が進んできているが、模試の結果等をみるとまだまだ学力の向上には結びついていないと思われる。	
↑ 評価基準 ↓	A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
学校関係者の評価と意見	(評価) B デジタル機器の活用、小テストの実施などにより生徒の苦手意識を取り除き、基礎基本の定着に努めている。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	引き続きデジタル教材の活用等を通して授業の効率化を図りたい。また、基礎基本の徹底のため、課題提出や小テストの実施をこまめに行うことと、成績上位者に対する添削指導などを通じて、学習意欲と学力の向上に務めたい。	A

重 点 目 標	(1) 授業を通して生徒が自然科学に興味・関心を抱き、自己実現に向けて主体的に学ぶ姿勢を養成する。 (2) 探究活動を通して、課題を把握して計画的に観察実験を行い、結果を分析・解釈するための課題解決能力を養成する。 (3) 大学入学共通テストに関する情報を生徒へ還元し、共通テストで問われる学力を向上させるため、授業を改善する。
---------	--

目標達成のための具体的な手立て(方法)	(1) ICT を積極的に活用して生徒の興味・関心を高める。教員どうしで授業を参観し、有用な情報を共有する。 (2) 諸大学との連携を図るとともに、教員が積極的に校内外の研修に参加する。躍進において生徒の探究活動をサポートし、成果を校内外へ発信する。 (3) 研究会等による情報収集に努め、試行テストや模試の分析を行うとともに、課題テストや定期考査の作問を工夫する。 以上、授業や SSH アンケート、および研究発表等で検証する。
---------------------	--

目標達成により期待(予想)される生徒の変容の様子	(1) 家庭学習量が増え、学力の向上により進路志望が達成できる。 (2) 諸大学の教員・学生や地域との交流をすすめ、生徒の探究活動に対するサポート体制が構築され、秀逸な活動や主体性の育成が期待できる。 (3) 思考力・判断力・表現力が養成され、共通テストや二次試験に耐える学力が身に付く。
--------------------------	--

具体的な取組状況	(1) 実験動画等を利用し、事象についてイメージを持たせる。 (2) 協働授業やインターンシップによって、その後の探究活動の検証・改善の手がかりを見つける。 (3) 模試や入試過去問等の分析をもとに、定期考査に思考力を問う問題を提示し、学力の向上を図る。
----------	---

達成状況	ICT の活用で、生徒の興味や関心は顕著に高まったが、それが基礎学力や論理的思考力の向上等につながったか、検証が必要である。
------	--

自 己 評 価	(評価) B	主体的な探究活動により、プレゼンテーション能力等の向上が確認できる。しかし、大学入試に耐える学力が不足している生徒も少なくない。
---------	-----------	--

- ↑
評価基準
↓
- A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 - B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 - C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者の評価と意見	(評価) B	生徒の興味や関心を引き出す取り組みは評価できるので、今後学力の向上につながるような指導を期待したい。
-------------	-----------	--

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	今後も自然事象に対する興味や関心を高める工夫を続けると同時に、考查や模擬試験の正答率等を分析して授業にフィードバックし、大学入試に耐える学力の養成に取り組みたい。
-----------------------	---

P

D

C

C

A

重 点 目 標	<p>(1) 体育 ○運動の楽しさ・喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を継続できる資質・能力を育成する。 ○健康・安全を確保し、公正に取り組む・互いに協力する・自己の責任を果たすなどの態度を養う。</p> <p>(2) 保健 ○生涯を通じ、個人及び社会生活における健康・安全に理解を深め、改善していくための資質・能力を育てる。</p>	
	<p>(1) 体育 ・自ら考え判断する活動を促すことにより、運動の特性を理解し、種目特有の技術を獲得できるようとする。 ・準備運動及び体づくり運動の中で、各種運動の特性に応じた危険を知らせる。</p> <p>(2) 保健 ・自他の健康と安全について主体的に考えられるようにするために、発表や意見交換の機会を多くする。</p>	
目標達成による期待(予想)される生徒の変容の様子	<p>(1) 体育 ・新体力テストにおいて、昨年度を上回る結果が得られるなど、生徒の体力が向上または維持される。 ・日常生活の運動場面でも危険を回避できるようになり、怪我が減少する。</p> <p>(2) 保健 ・得た情報や知識により、生涯を通じて健康と安全に留意して生活できるようになる。また、他者の考えを受け入れ、自分の意見をしっかりと伝えられるようになる。</p>	P.
具体的な取組状況	<p>(1) 準備運動及び体づくり運動、体力を高める運動を毎時間実施することで、体力の向上につながるよう努めた。 選択した種目を継続実施することで、種目特有の技能獲得、向上に努めた。</p> <p>(2) グループワークでの意見交換、スライドを作成し発表するなど主体的に活動する時間の確保に努めた。</p>	D
達成状況	<p>(1) 学年が上がるにつき、体力・技能の向上がほとんどの生徒で顕著に見られた。</p> <p>(2) 授業のまとめや発表について自主的、主体的に行うことができた生徒が多くいた。</p>	
自己評価	(評価) B	体力向上については、継続している成果は出ているが、マンネリ化している部分の改善が必要である。
↑ 評価基準 ↓	A: 具体的な活動がなされ目標を達成できた B: 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C: 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	C
学校関係者の評価と意見	(評価) B	健康・安全の意識と体力の向上を今後も図ってほしい。 目標達成に向けた具体的な活動もなされており、その達成状況からも「A」評価でもよいと思われる。
自己評価及び学年評価に基づいた改善策	引き続き、生涯にわたって運動を継続できる資質・能力の育成につながるように授業を開いていく。総合的な体力向上につながるような運動の提示をし、主体的に実践できるようにする。 生徒の主体的な発表やグループワークを生かして、学んだ知識から具体的な意思決定・行動選択につなげられるようにする。	A

重 点 目 標	(1) 芸術の幅広い活動を通して、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を育成する。 (2) 表現及び鑑賞を通して、感じ、考え、活用し、理解を深めながら、豊かな感性を育み、よりよく生きるために道標をつくる。	P
---------	--	---

目標達成のための具体的な手立て(方法)	(1) 芸術科目の特質について理解させ、意図に基づいて表現するための知識・技能を身につける指導をする。 (2) 題材の精選と、プレゼンテーションやグループでの活動を通じ、芸術において学んだことの意義が実感できるような工夫をする。	P
---------------------	---	---

目標達成により期待(予想)される生徒の変容の様子	(1) 知識・技能の習得により、日常でも芸術の視点から物事を観察して感じ、関わるようになる。 (2) 個々の演奏や作品のよさを感じ、考えを共有しながら、自らの課題を設定し、学びに向かう力と人間性を育んでゆく。	P
--------------------------	---	---

具体的な取組状況	(1) 学習指導要領に基づき、日常に関わる芸術の受け止め方や、先人の作品や歴史、意味を深く感じさせた上で、知識・技能の習得に踏み込む指導を行った。 (2) より高度な題材の精選と共に、演奏、発表、プレゼンテーションやグループ活動を充実させ、得た成果や個々の調査を礎に活動を深めた。	D
----------	---	---

達成状況	(1) 芸術の価値や意味に気づいた上で、知識・技能の定着がはかれた。 (2) 演奏や作品(制作)などの表現による伝達はもとより、作品のよさを感じ取りながら考えを言語化し、学んだことを生かそうとする姿が見られた。	D
------	--	---

自己評価	(評価) A	芸術における様々な場面での苦悩や葛藤を克服する力をもって、真の芸術のあり方や意味を理解できた。知識・技能の習得を超えて、感性と、学びに向かう力が育まれたと考える。	C
------	-----------	---	---

↑ 評価基準
 ↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者の評価と意見	(評価) A	・作品のよさを言葉で表現することの大切さ。生徒の豊かな感性を引き出すための取り組みがなされている。 ・真の芸術のあり方や意味を理解できたことは素晴らしい。 ・掲げた重点目標を達成できたことは素晴らしい。	C
-------------	-----------	---	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	・表現や鑑賞において、自己の生き方を考え問い合わせ題材等を、情勢に照らし合わせ等して精選する。 ・題材の精選、演奏、発表などといった具体的取り組みにおいての、ICT活用をさらに充実させる。	A
-----------------------	---	---

重 点 目 標	(1) 自律的・主体的な学習者の育成 (2) 「聞くこと」「話すこと(発表)」「話すこと(やり取り)」「読むこと」「書くこと」の5つの領域のバランスが取れた確かな学力の育成 (3) I C Tを活用した課題解決力の育成
---------	---

目標達成のための具体的な手立て(方法)	(1) 学習内容の定着度に応じて、課題等の内容・分量・時期を工夫する。学習時間調査や定期考査等の成績、生徒の授業への参加態度を通じて検証する。 (2) 授業において、4技能(聞く・話す・読む・書く)をバランスよく伸ばす活動を多く取り入れる。特に1年生は、他者とのやり取りを含む活動を盛り込む。授業内の生徒観察や提出物、授業アンケート等を参考にして、指導方法の検証や改善に取り組む。 (3) I C Tを活用した授業方法について継続的に研究し、出来れば数多く実践する。教科内でアイディアを多く共有する。生徒の活動観察やアンケート等で検証する。
---------------------	--

目標達成により期待(予想)される生徒の変容の様子	(1) 自律的に学習することで知識・技能の更なる定着が図られる。主体的な学びにより理解が深まり、発展的な学習につながる。 (2) 5つの領域のバランスが取れた英語力の伸長により、大学受験への対応力が高まる。また、生徒個々の強化分野が明確になり、弱点の補強が期待できる。 (3) I C Tをうまく活用することで、授業に対する生徒の関心・意欲を高め、視覚的効果等から理解度が深まることが期待される。また、I C Tにより多様な活動が可能になり、それによって課題解決力の向上にもつながると思われる。
--------------------------	---

具体的な取組状況	(1) 授業進度に応じた朝学習、週末課題を課し、知識の定着に努めた。 (2) 英語で聞いたり読んだりしたことを基に、話したり書いたりする活動を増やした。 (3) 授業で頻繁にI C Tを活用したり、生徒にタブレットでのプレゼンを行わせたりして、英語への興味・関心を高めるよう働きかけた。
----------	---

達成状況	読解のスピードが遅い生徒や、英文を正しく解釈できない生徒がまだ多い。この状況を改善するために、生徒の語彙力を伸ばすとともに、より多くの英文に触れさせる機会を設けたい。
------	---

自己評価	(評価) B	英語でやり取りする力の伸長が特に課題である。今後も4技能をバランスよく伸ばす活動に力を入れるとともに、I C Tの活用も引き続き行って英語への興味喚起に努め、そこから英語力を伸ばせるよう指導したい。
------	-----------	---

↑ 評価基準 ↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者の評価と意見	(評価) B	I C Tの活用や4技能をバランス良く取り入れた活動は十分評価できる。引き続き学力向上・課題解決能力の育成につながる活用方法を見出させていただきたい。
-------------	-----------	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	英語への興味関心を高め、コミュニケーションツールとして楽しく身に付くような指導を工夫してほしいという意見もあったので、I C TやA L Tを上手く活用した授業を今後も継続していく。一方で語彙や文法の定着に特に課題があるので、英文を多く書く・読む練習や単語テスト等を適宜課し、学力向上のために根気強く指導していきたい。
-----------------------	---

P

D

C

C

A

重 点 目 標	<p>① 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようとする。</p> <p>② 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。</p> <p>③ 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。</p>	
	<p>① 実験・観察、実習を適宜取り入れ、生徒が興味・関心をもち知的探究心を高める工夫をする。</p> <p>② 生徒にとって身近な題材を取り上げたり、実物の提示や新聞記事・データを活用したりするなど実生活に即した教材の工夫をする。</p> <p>③ 持続可能な社会の実現に向けての生活改善という視点を明確にし、ICTを活用した発表を取り入れながら効率的・効果的に進める。</p>	
目標達成のための具体的な手立て(方法)		
目標達成により期待される生徒の変容の様子	<p>① 実験・観察に取り組んだり、作品を完成したりすることにより習得した知識と技術を、実生活で主体的に活用・応用しようとする。</p> <p>② 家庭科を身近な教科と捉え、授業に向かう姿勢が積極的になり、主体的に学ぼうとする意欲を高める。また、自己理解を深めるとともに自分、家族、社会に関心をもち、自分らしい生き方について考えることができる。</p> <p>③ 身近な生活から課題を見いだし、解決方法を考え計画・実行・反省という過程を通じて自己解決ができる。また、その成果を効果的にプレゼンテーションすることができる。</p>	
具体的な取組状況	<p>① 実験・観察は実施できなかった。「幼児と共に育つ」の単元で学校図書館と連携し級友と共に幼児のための絵本を選び読み聞かせの疑似体験を行ったり、「衣生活をつくる」の単元で小中学校で学んだ被服製作の基本を振り返り、一人一人がデザインや布を選択し日本の伝統手芸の「刺し子」製作を行った。</p> <p>② 持続可能な社会の実現に向けた学習として、「高齢化」「エシカルファッション」等をテーマに現実の生活と関わらせレポート作成を行った。新聞記事やICT等を活用して調べ学習を行った。ICTを活用した発表はできなかった。</p>	
達成状況	<p>・実生活と関わらせ、持続可能な社会の実現に向けどうあればいいかという課題や、実践を伴う学習、級友と共に学び合う学習では、学ぶ意欲が高まった。</p> <p>・ICTを活用して学び合う学習はできなかった。</p>	
自己評価	(評価) B	<ul style="list-style-type: none"> SDGsを実生活と関わらせて学んだり、級友との学び合いの場を設定したり、実技や研究を取り入れたりする学習は目標の達成に効果的だった。 考えを他者に発信し共に高め合う学びの機会としてICTの活用に今後努めたい。
評価基準	<p>A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>	
学校関係者の評価と意見	(評価) B	<ul style="list-style-type: none"> 実生活に生かせる内容を取り上げ工夫している。 SDGsに関わらせ、実践できるように指導している。 ICT活用の取り組みに期待する。
自己評価及学校評価に改善すべき策	<p>ICTの活用についての反省を踏まえ、冬休み明けの授業では、自己テーマを設定し、調査・実践したことをスライドにまとめ、グループや学級で発信・共有した。自己テーマを追求し、級友と学び合うことは表現力を高め、多様な学びの機会になった。</p>	

重 点 目 標	<p>(1) 情報や情報社会に关心を持ち、身の回りの問題解決のために積極的に情報技術を活用して情報収集に努め、解決することができる力を養う。</p> <p>(2) 問題解決に至る論理的思考力や説得力のある表現方法等を備えた発信力を身につけさせる。</p> <p>(3) 情報モラルとセキュリティ意識・知識を高め、理性的な判断に基づいた適切かつ安全に情報技術を活用する実践力を身につけさせる。</p> <p>(4) (1)～(3)の力に基づき、大学入試共通テストに対応できる学力を身につけさせ、令和7年度入試に向けて準備させる。</p>		P	
	<p>(1) 初期段階で情報機器に慣れさせ、素早い問題解決に必要なスキルを指導する。 ・情報技術を用いた問題解決法の提案、指導を行う。 ・教科「総合」と連携し、課題解決に当たる。</p> <p>(2) インターネットをはじめとした情報収集・分析方法及び、発表材料となる具体例や数値の示し方など分かりやすい表現を指導する。</p> <p>(3) 知的財産権や個人情報等の扱いに関する知識や考えを指導する。 ・SNSや動画等の投稿などにおいて求められるモラルを考えさせる。 ・安全なパスワードの設定、管理を実践させる。 ・実際の情報漏洩の原因、結果、影響について学ばせる。</p> <p>(4) 定期的な課題や小テストにより、入試レベル問題に触れさせる。</p>			
目標達成による期待(予想)される生徒の変容の様子	<p>(1) インターネット検索や文書作成等の課題を適正時間内に行うことができる。 ・作業に割かれる時間が減ることにより、考えたり、話し合ったり等が活発にできる。</p> <p>(2) 自分の調査や分析について自信を持って発表することができる。</p> <p>(3) 実生活で権利や情報を扱う際に適切な態度、判断を行うことができる。</p> <p>(4) 大学入試共通テストに対応できる学力が身につく。</p>		D	
	<ul style="list-style-type: none"> Chromebook の利用を前提とした学習 Web コンテンツ「Life is Tech!Lesson」が導入され、生徒各自で学習に取り組む体制が整備された。授業や自習において活用している。 大学入試共通テストの試作問題に触れさせ、受験科目としての意識を高めた。 			
達 成 状 況	<ul style="list-style-type: none"> Life is Tech!Lesson を活用して各生徒に応じたペースで学習を進め、力を付けている。 日常的な ICT 活用の場面で、著作権や個人情報に配慮している。 		C	
	<p>自己評価</p> <p>(評価) B</p> <p>Chromebook の活用等、ICT への適応は進んでいるが、大学入試共通テストへの対応を含め、本校独自の取り組みはあまりできなかつた。</p>			
<p>↑ 評価基準 ↓</p> <p>A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない</p>		C		
学校関係者の評価と意見	<p>(評価) B</p> <p>具体的な取り組みが行われており、今後もさらなる推進を。 ・今の時代に即した授業を行っている。</p>			
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> 複数の教材を用いて効果的かつ実践的な指導で力を付けさせる。 早期からの問題演習を通じて共通テストに対応した力を付けさせる。 引き続き情報活用に関する基本的な知識を重点的に指導し、適切に情報発信、分析、発表ができるよう指導する。 		A	

重 点 目 標	(1) P.T.A活動の活性化に努め、総会やP.T.A関係行事への参加者を増やす。 (2) 式典・儀式を厳粛に執り行う。 (3) 学年部、他分掌との連携を深めながら、分掌活動をとりまとめ学校運営の円滑化を図る。	P
---------	---	---

目標達成のための具体的な手立て(方法)	(1) P.T.A活動に保護者が参加したくなるような内容の提案とPRを図る。活動の活性化のために、P.T.A主導で企画・運営がなされるよう促す。 (2) 式典・儀式に臨む態度や、場にふさわしい服装を指導する。 (3) 学校運営の充実が図れるよう、学年部、他分掌との連絡・調整を密にする。	P
---------------------	---	---

目標達成により期待(予想)される生徒の変容の様子	(1) P.T.A活動に保護者が理解を深め、行事等に積極的に参加するようになることで、生徒が主体的・積極的に活動するようになる。 (2) 式典が厳粛に行われることで、母校に対する誇りと自覚が養われるとともに、公共マナーが身につく。 (3) 学年部、他分掌との連携を図ることによって、学校運営が円滑になる。	P
--------------------------	--	---

具体的な取組状況	(1) 中央祭P.T.A企画では、昨年に引き続き「野菜販売」「餡ごま餅販売」を実施した。 (2) 高P連東北大会、全国大会に3年ぶりに参加した。 (3) 各種行事や会議等の日程調整をはかった。	D
達成状況	(1) 生徒会のガイドラインに従い今年度も好評を得た。 (2) 役員は大会に参加することで良い研修、情報交換の機会を得た。 (3) 学年部、各分掌とは円滑な学校運営のための意思疎通がはかれている。	

自己評価	(評価) A	総務部の業務は数字で評価することは難しいが、P.T.A総会の同意書や保護者アンケートの提出率も高い水準であり、概ね順調に運営できている。今後も先を見通した計画を立て運営していきたい。	C
------	-----------	---	---

↑ A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 ↓ B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者の評価と意見	(評価) A	・多忙の中、円滑に事業を進めた対応力が素晴らしい。 ・コロナ禍の中、概ね順調に運営されている。全体的に高い水準で成果を上げており、十分評価できる。 ・保護者アンケートに対するフォローをして欲しい。	C
-------------	-----------	--	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	職員会議や式典、P.T.A活動など管轄する分掌業務は多岐にわたるが概ね順調に運営できている。この3年間、コロナウイルス感染拡大で縮小してきた各種行事をどのようにコロナ前の状態に戻していくかが大きな課題になると思う。また指摘を受けた、保護者の意見についてフィードバックする方法も改善していきたいと思う。		
-----------------------	--	--	--

重 点 目 標	(1) 授業時数の確保と偏りの少ない時間割の実施。 (2) 新学習指導要領、SSH事業二期目の円滑な運営及び大学入学共通テストの動向を考慮して、教育課程の検討を続ける。 (3) 指導と評価の一体化を進め、指導の改善をはかる。		
	(1) バランスの良い時間割の作成に努める。また、各分掌と調整を図り、行事及び特別時間割を検討する。 検証：前期末、年度末に各教科、各クラスの授業時数を調査し、時数に偏りがないかチェックする。 (2) 新教育課程作成委員会と連携し、他校の例も参考にしながら、各教科の意見を取り入れて検討を続ける。 検証：職員会議などの場を活用し、検討結果を職員全体で検証する。 (3) 学習評価の充実に向け、各教科の評価基準の明確化やペーパーテスト等の改善を進める。 検証：成績処理結果や考查問題を慎重に点検する。		
目標達成のための具体的な手立て(方法)		P	
目標達成により期待(予想)される生徒の変容の様子	(1) 偏りの少ない授業時数確保により、基礎学力の向上につながる。 (2) 教育課程の検討にともない、本校に特徴的な探究型の授業を展開することで、自ら課題を発見し、解決に向けて探究し、考えなどを的確に表現する力が身に付く。 (3) 適正な指導と成績評価を行うことで、見通しをもって学習し、学習の進め方を自ら調整していくことができるようになり、学習改善につながる。		
具体的な取組状況	(1) 各学年部や各文章からの要望に応じて時間割の調整を図っている。 (2) 「数学」・「情報」・「芸術」の部分を変更し、新たな教育課程を編成した。 (3) 各教科で試行錯誤を重ね、成績評価のより良い方法を模索している。	D	
達成状況	(1) 年間全体で見ると、授業時数のバランスはとれている。 (2) 新教育課程2年目の実施に向けて準備が進んでいる。 (3) 評価の観点に応じた成績評価を各教科を中心に行い、指導の改善を進めた。		
自己評価	(評価) A	目標はほぼ達成できたが、「指導と評価の一体化」については今後も検討と改善が必要である。特に、評価が「学習の改善」や「指導の改善」に効果的に結びついているかについて検証を進めたい。	C
評価基準	↑ A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない ↓ C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
学校関係者の評価と意見	(評価) A	偏りの少ないバランスを考えた時間割作成、また新たな教育課程も編成し、引き続き「指導と評価の一体化」について検討をお願いしたい。	C
自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	'指導と評価の一体化'について今後も検討を重ね、「学習の改善」や「指導の改善」につなげる。各学年部、各教科からの意見等を取りまとめて進める。また、新年度開始の校務支援システムの有効活用と円滑な運用にも、各分掌と連携して取り組んでいきたい。	A	

重点目標	(1) キャリア教育の視点に立ち、SSHの成果を踏まえながら、生徒の進路目標の達成に向けて系統的・計画的な取り組みを展開する。 (2) 自ら主体的に学ぶ力を育て、基礎・基本の定着をもとに学力の向上を図る。
------	---

目標達成のための具体的な手立て(方法)	(1) 高校3年間を見通した系統的・計画的な進路指導計画の立案と実践 ・「ステップポート・GPS-Academic」や進路志望調査を実施し、有効に活用する。 ・SSHの成果を生かした総合型・学校推薦型選抜入試への対策を充実する。 (検証) 「ステップポート」、「GPS-Academic」、「進路志望調査」結果の分析、進学実績 (2) 学習規律の徹底と学力向上に向けた指導の充実 ・教科の特性に応じた学習スタイルの確立、ペル即、家庭学習の習慣化を徹底する。 ・朝学習や小テストのねらいを明確にするとともに、夏・冬期講習の工夫によって、個々のレベルに応じた実践力や応用力を養成する。 ・大学入学共通テストにむけて、教務部、研究部等とも連携し、校内研修や授業改善の工夫等に取り組む。 ・授業力向上のための、教員研修（予備校研修、先進校視察等）を実施する。 (検証) 学習時間調査の実施、授業や考查、模試による学習事項の定着度
---------------------	---

目標達成により期待(予想)される生徒の変容の様子	(1) 主体的な進路意識が高まり、高い目標を持って努力するようになる。 (2) 授業への取組が積極的になり、基礎学力が着実に定着する。
--------------------------	--

具体的な取組状況	(1) コロナウイルスの影響はあったものの、文理選択ガイダンスやオンラインで大学模擬講義を実施し、生徒の進路意識の向上を図った。 (2) リモートによる各種説明会に積極的に参加し、情報共有できた
達成状況	(1) 総合型・学校推薦型選抜については、今年度は厳しい結果だった。全校での指導体制の確立が急務である。教務と連携して校務支援システムを有効に活用し、調査書の発行などをを行うことができた。 (2) ステップポート・GPS-Academicなどの外部教材を活用したり、学習時間調査・進路希望調査などを継続して行ったりして、主体的に学ぶ力の育成を図った。

自己評価	(評価) A	重点目標の達成と各学年における進路指導の継続的な充実に向けて、進路指導部としての共通実践事項と学年裁量部分との調整及び共通理解を図ることができた。
------	-----------	---

- ↑ 評価基準 ↓
- A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 - B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 - C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者の評価と意見	(評価) A	総合型・学校推薦型選抜は少々残念な結果であったが、校務支援システムや外部教材等の有効活用は十分評価できる。
-------------	-----------	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	○難関大学への入学者数増加につながる組織的指導を継続して行う。 ○各学年の取組による成果と課題を共有し、包括的に進路指導の質の向上を図る。 ○学力保障するための授業改善や考查問題の改善と教員研修等に継続して取り組む。
-----------------------	--

重 点 目 標	良識ある社会人になるためにルールを遵守する態度を身につけるとともに、秋田中央高校の一員として節度ある行動ができるようとする。
---------	--

目標達成のための具体的な手立て(方法)	(1)登下校指導、学年集会及びLHR等を通じ、あいさつの励行、遅刻の防止、ルールに則した身だしなみ、情報モラルの向上に係る指導を実践し、基本的な生活習慣を育成する。 (2)交通安全週間や登校時安全指導を通じ、交通ルール・マナーを遵守する態度を養う。 (3)学校行事等を通じ、集団の中の一員として協調性や他者を思いやる心を育成する。
---------------------	---

目標達成により期待(予想)される生徒の変容の様子	(1)規律ある生活が送れるようになる。 (2)交通安全に対する意識が向上し、交通事故が減少する。 (3)他者をリスペクトできるようになる。
--------------------------	---

具体的な取組状況	(1)全職員による毎朝の登校指導、生徒指導部職員による昇降口指導、全校一斉整容検査、情報モラル教室を計画通り実施した。 (2)全職員による交通安全週間、登校時安全指導、交通安全教室と生徒指導部職員による下校指導、自転車施錠調査を計画通り実施した。 (3)中央祭、球技大会等の準備を通じ、学年の職員を中心に指導した。
----------	---

達成状況	(1)○全職員で協力してできた。全職員が関わることにより、生徒にも学校全体の取組であることが伝わった。 ○情報モラル教室により、情報の授業で学んだ基礎知識を生かし、情報リテラシーを身につけた。 ●遅刻が気になった。遅刻が減って朝学習への取り組み方が変われば、学力向上に直結すると思う。 (2)全職員で協力してできた。全職員が関わることにより、校内全体の規範意識が高まった。交通事故の届け出が減少した。 (3)学年の職員が連携をとって、指導が行われた。
------	---

自己評価	(評価) A ○生徒が、安全に安心して学校生活を送ることができる環境づくりができた。学校全体が落ち着いている。 ○全職員で継続した指導ができた。生徒が規範について考え、他者や地域社会との関わりを考えて行動できるようになつた。 ●あいさつをしない、ポケットに手を入れ顔を見ないでいる生徒への指導をどうするか。
------	---

- ↑ 評価基準 ↓
- A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 - B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 - C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者の評価と意見	(評価) A ・今後も、全職員共通理解で規範意識向上指導を。 ・挨拶、登下校時のマナーが良い。容姿の乱れはない。 ・一方的に叱るのではなく、思いやる心が素晴らしい。 ・「挨拶をしない生徒」等にどう対処していくかが課題。」
-------------	---

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	・学校の教育活動全体を通して行う。 ・職員共通理解のもとに行う。 ・多くの職員を巻き込んで取り組む姿勢を構築する。
-----------------------	---

重 点 目 標	(1) 部活動を通じて人間力の涵養に努めるとともに、部活動に所属する生徒の学習面での課題を解決し、プライドをもって活躍できる生徒を育成する。 (2) 生徒会の運営を活発にして、生徒が全員参加し、自主的な運営による中央祭、球技大会等各種行事の内容の充実を図る。 (3) 日常的な活動を取り入れた各委員会活動を通して、充実・活性化した生徒会を目指す。
---------	---

目標達成のための具体的な手立て(方法)	(1) 学年部、部活動顧問等の関係分掌との連携を密にし、各部毎に練習計画を調整して、積極的に学習会、補習、模擬試験等へ参加させる。 (2) 各行事の計画内容を早めに周知徹底し、十分な準備期間が確保できるよう配慮するとともに、地域との連携を積極的に図っていく。 (3) 自主性と責任感をもった委員会活動を開催し、生徒個々の学校生活の充実を図る。
---------------------	---

目標達成により期待(予想)される生徒の変容の様子	(1) 部活動と学習との両立によって心身が磨かれ、進路希望の達成が図られる。 (2) 学校行事のさらなる充実と、生徒個人が本校生としての誇りを持つことができる。 (3) 委員会が十分に機能し、その役割を果たすことによって生徒会活動の活性化が図られる。
--------------------------	---

具体的な取組状況	(1) 补習、模試だけでなく、スタディジョギングにも積極的に参加した。 (2) 生徒会執行部が中心となって昨年度から企画を練り、生徒の安全と感染対策を念頭に置いた新たな学校祭の形を探った。 (3) 各委員会顧問の指導の下、活動計画に沿って活動した。
達成状況	(1) 部活動への取り組みはもちろん、学習活動にも積極的に参加することで心身の成長に繋がった。 (2) 学校祭では模擬店、合唱コンクールなど感染対策を徹底し、人数制限はあったが保護者にも参加してもらい、ほぼ例年通りの活動を実現できた。また、地域の商品を販売することで連携を深めると共に、校外に活動を発信することができた。 (3) 委員会主導で活動を計画したり運営したりする場面を多く作ることができた。

自己評価	(評価) A	コロナ禍で活動が制限される中、先生方の理解と協力により、部活動や学校行事など最大限可能な範囲で実施できたと思う。
------	-----------	--

- ↑ A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 ↓ B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者の評価と意見	(評価) A	・コロナ禍でも工夫しながら活動し、成果となって表れている。 ・部活動の各種成績は素晴らしい。学校祭も保護者が参加できてもよかった。 ・コロナ禍の中、学習と部活動の両立により心身が磨かれた。学校祭等できる範囲で生徒の自主性を重んじ、最大限可能な範囲で実施できたのは素晴らしい。 ・全国大会出場を大いに期待します。応援します。
-------------	-----------	--

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	保護者や学校関係者の本校学校行事や部活動への期待の大きさを感じる。これまで以上に生徒の主体性を引き出せるような指導を心がけたい。	
-----------------------	--	--

P

D

C

C

A

重点目標	自己や周囲の健康課題に対して、適切な対応ができる能力の育成を図る。
------	-----------------------------------

目標達成のための具体的な手立て(方法)	<p>(1) 健康教育・保健指導を通しての健康意識の啓発・徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防を含めた健康維持に関する情報の発信（生徒会保健委員会による中央祭展示等の啓蒙活動を含む） ・健康講話（性教育講話）、救急救命講習の実施 ・教科との連携による健康教育 ・学年部や部活動との連携による生徒の健康実態の把握と健康課題の発見およびそれに基づく保健指導 <p>(2) 学習環境の整備・指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒による清掃活動が円滑に行われるよう、清掃手順等をわかりやすく示し、用具や備品の点検整備に努め、日常的に清掃状況を確認・指導する。 ・学年部や部活動との連携および生徒会の保健委員会や美化委員会の活動等を通して、日頃から環境美化の意識を持つよう啓蒙に努める。
---------------------	--

目標達成により期待(予想)される生徒の変容の様子	<p>(1) 健康管理の重要性を認識することで、その場に応じた適切な判断や行動ができるようになる。</p> <p>(2) 環境を整えることが健康につながり、学習効果にも反映されることを認識することで、主体的・習慣的に清掃や整理整頓に取り組む姿勢が身に付く。</p>
--------------------------	--

具体的な取組状況	保健委員会による感染症対策および啓蒙、性教育講話（2年生）、救急救命講習（職員）、毎朝のホームルームでの生徒の健康観察等を行った。また、不足していた清掃用具も予算が確保されて補充できた。
達成状況	校内でコロナ感染が拡大した時期があり心配されたが、予定していた内容はおおよそ実行することができた。

自己評価	(評価) A	部員数が減り、行き届かない面もあったが、その中でできるることは実行できたと思う。
------	-----------	--

- ↑ A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
 ↓ B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
 C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者の評価と意見	(評価) A	引き続き、生徒の健康管理能力の育成と向上を図り、感染防止に努めてほしい。
-------------	-----------	--------------------------------------

自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	今後も感染症対策は欠かせないと思われる所以、各方面と十分に連携しながらより実効性のある方法を探り、実行していきたい。また、生徒の健康に対する意識の啓発や学校保健環境の整備にも引き続き務めていきたい。
-----------------------	---

P

D

C

C

A

重 点 目 標	(1) 生徒の自主的な学びや生きる力を育む環境としての図書館づくり (2) 生徒・職員の図書館利用の促進と生涯にわたる読書習慣の育成 (3) 生徒用 GigaSchool 機材、職員が利用する視聴覚機材の管理と研修	P
目標達成のため具体的な手立て(方法)	(1) 図書委員会活動の活性化 ・図書委員会による企画行事（POP交流、古本市など） ・図書館だより「続 Oasis」と図書館報「緑園」の定期発行 (2) 図書館、図書委員会による広報・啓発活動の充実 ・授業やSSH、小論文指導で活用できる図書の充実 ・県立図書館・市立図書館からの相互貸借によるリクエスト本の手配 (3) 視聴覚機器の管理 ・生徒用端末の管理、Google for Education の設定、管理、研修 ・会議室・大講堂、アリーナの機材の確認と使用方法の周知	
目標達成により期待(予想)される生徒の変容の様子	(1) 図書委員の活動の機会が増え、積極性が培われる。 (2) 読書習慣が身についた生徒が増え、探究心が高まり、読解力が向上する。 (3) ICT機器を日常生活や授業理解に活用する意識が培われる。	D
具体的な取組状況	(1) 学校祭での古本市、POPコンクールの運営。他校生徒とのPOP交流への参加。 図書館だより「続 Oasis」と図書館報「緑園」の発行。 (2) 絵本の読み聞かせ、ピブリオバトルなどの実施。国語、家庭科授業での使用。 図書館オリエンテーション、新書読書記録における読書指導。SSH、小論文指導で活用できる図書の購入。授業に合わせた相互貸借の実施。 (3) 端末利用の指導。保守対応。Googleアカウントの管理。Zoom等への対応。	
達成状況	(1) 子供の読書活動優秀実践校に選出され文部大臣表彰、図書館報が県の高校図書館報コンクールにて最優秀賞受賞。学校祭での古本市とPOPコンクールの投票は盛況であった。他校生徒との交流にも意欲的に参加した。 (2) 図書館オリエンテーションや新書読書記録への取組で、貸し出し生徒が増え読書する意識が向上している。3年生の受験対策の小論文の書き方や進路に応じた内容の新書などが多く借りられた。相互貸借は適切に実施されている。 (3) 日常的にタブレット端末、電子黒板が利用されている。利用頻度の高さ故か端末の故障が多発している。紙使用の削減と、専門の人材によるサポートの依頼を検討していきたい。	C
自己評価	(評価) A 図書館司書の日々の研究と努力により、図書館の活性状況は県内一と評していいだろう。教科をはじめ探究活動、進路指導においても司書と教員の連携により、図書館の有効活用の可能性を広げた。 学級や教科でタブレット端末、電子黒板を活用できた。	
評価基準	A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
学校関係者の評価と意見	(評価) A 図書館活用を図るため、様々な工夫がなされている。 読書への関心を高める様々な取り組みがよい。 各種表彰、受賞は素晴らしい。	C
自己評価及び学校関係者評価に基	・年間を見通した図書館活動、使用計画をさらに充実させる。 ・学校全体（進路、行事、特活など）での相互貸借、活用を促す。 ・視聴覚関連の専門家のサポートを仰ぐ。	A

重 点 目 標	(1)生徒が主体的・協働的に活動し探究していく中央高校型授業スタイルを確立させる。 (2)職員が効果的に研修できる環境作りに努める。	P
目標達成のための具体的な手立て(方法)	(1)・10月に授業参観月間、12月に授業研修会を実施し、教科の枠を超えて授業を参観しあい協議することによって授業改善を図る。 ・授業アンケートによって授業の改善点を把握し授業改善を図る。 (2)・授業改善がより効果的に行われるよう、ICTを活用した授業研修会のあり方を工夫する。 ・校外研修を案内し参加を呼びかけるとともに、本校を会場とする研修会に協力する。	
目標達成により期待(予想)される生徒の変容の様子	(1)主体的・協働的に授業に臨むことによって課題解決力が育まれる。 (2)職員研修の成果が生徒に還元されることにより、授業に対する意欲が高まる。	
具体的な取組状況	(1)・10月授業参観月間では初任者の授業に多くの職員が参加し感想とアドバイスを提出した。双方に多くの気づきがあった。 ・12月授業研修会を生物基礎・地理B・保健で実施。ICTを活用し対話を意識した授業について有意義な提案がなされた。 ・タブレットによる授業アンケートを2回実施し、アンケートデータをレーダーチャートで示して2回の変化を可視化することで、授業改善の一助とした。 (2)・授業研修会のJamboardを用いた協議はスムーズに運用できた。 ・校外研修は職員に掲示版(NDボード及び書架)で周知。秋田県国語科教員の中堅研修を本校で実施した。	D
達 成 状 況	(1)(2)ともにICTを活用する授業・協議・アンケート実施が定着した。	

自 己 評 価	(評価) B	「ICTの活用」を授業改善の重点課題として掲げて2年目となつたが、それにより生徒の「思考の深まり」と「課題解決力の育成」がどのようになされるのか、具体的な検証が今後必要である。	C
---------	-----------	--	---

↑
評価基準
↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者の評価と意見	(評価) B	「ICTの活用」における成果と課題の検証がなされ、生徒の意欲と課題解決力が高まることを期待する。	C
-------------	-----------	--	---

自 己 評 価 及 び 学 校 関 係 者 評 価 に 基 づ い た 改 善 策	○ICTを活用した授業のあり方について検証を進める。 ○授業研修会の効果的なあり方を今後も模索していく。 ○「課題解決力」を育成するために、教育活動全体をとおして「対話力」を高める授業改善の取り組みを今後も継続していく。	A
---	--	---

学校評価保護者アンケートへの回答

【施設設備】(事務長)

- ・空調について、「暑い」「寒い」とよく言っているので調整するなどして環境を整えてほしい。

エアコンの稼働につきましては、生徒の皆さんの健康を保護し、適切な環境のもとで学校生活を送れるように、文部科学省による「学校環境衛生基準」や学校薬剤師の指導に基づき、授業中はもちろんのこと補習等においても必要に応じて運転しております。体感温度に個人差もあるかと思いますので、適宜服装での調節をお願いいただけたらと思います。

【情報共有】(総務)

- ・H P の月間行事予定の掲載をできれば前月中にお願いしたい。

月間行事予定の最終決定は、年間行事予定をもとに前月下旬の職員会議にて決定されます。職員会議で決定後の掲載となりますのでご了承ください。なお、毎年4月下旬に開催されますP T A総会資料や学校H Pにも年間行事予定を掲載しております。スマートフォンからも閲覧可能ですので、ぜひご利用ください。

【進路指導】(進路指導)

- ・保護者参加型の大学進学セミナー等、志望校の情報を教えていただけると助かります。

業者主催の大学説明会などは、各クラスに案内を出しておきますので、生徒を通じてご確認の上、希望の大学が参加するようでしたら、是非参加していただきたいと思います。また、来年度は大学のオープンキャンパスも従来通り開催されるようですので、志望校のオープンキャンパスのは是非参加していただきたいと思います。また、オンラインのオープンキャンパスもありますので、遠いようでしたらそちらに参加することも一つだと思います。

【学習指導】(教務)

- ・教科ごとの補習等、対象者の基準は不明ですが、もっと苦手教科に向き合う機会があればと思います。

各教科の基礎力の向上を目的に各学年で毎日朝学習を実施しております。苦手教科の克服に活用できる教材としても役立つものを準備していますので、朝学習の課題を復習するなど、有効活用していただきたいと思います。また、各学年で毎回の定期考査前に放課後の学習会を行っていますので、特に普段部活動で多忙な生徒は、部活動の練習等が禁止になるこの機会に苦手教科に向き合うことができるようになります。学習会では質問コーナーも設けていますので、積極的に活用してください。ご要望にお応えできるよう、今後も生徒が苦手科目に向き合うことができるような方策を教務部・進路指導部・学年部で連携しながら提案していきたいと思います。

【生徒指導】(生徒指導)

- ・肌寒い時期、何かはおるのを許可してほしい。指定のカーディガン等があればよいと思った。

学校指定のセーター、無地のジャンパー、ウインドブレーカー、パーカーの着用を認めています。

【部活動】(特別活動)

- ・冬の部活動の練習場所が確保できず、部によって差があるので、体育館等公平に使用できるようにすべきだと思います。

冬期間の体育館使用については、顧問間で話し合いながら割り当てを決めていきたいと思います。

令和4年度 保護者による学校評価 集計結果

※数値は度合いの平均値(1-かなり低い → 3-普通 → 5-かなり高い)

質問項目	令和4年度			令和3年度			令和2年度		
	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
1 子供は、秋田中央高校で、充実感を持って生活しているようだ。	4.17	3.97	3.92	4.03	3.91	3.84	4.09	3.80	3.83
2 子供は、秋田中央高校で、学力を伸ばし成長しているようだ。	3.15	3.07	3.49	3.05	3.19	3.39	3.14	2.94	3.32
3 子供には、家庭での学習習慣が身に付いてきたようである。	2.84	2.92	3.41	2.92	2.97	3.32	2.97	2.92	3.35
4 子供の補習(平日・長期休業中)への参加状況には、満足している。	3.61	3.51	3.68	3.47	3.51	3.60	3.72	3.34	3.61
5 子供は、学校祭・球技大会などの学校行事が楽しいといっている。	4.23	4.09	4.18	4.04	4.10	4.05	4.09	4.10	4.12
6 子供を、秋田中央高校に入学させてよかったですと思っている。	4.33	4.03	4.14	4.02	4.06	4.05	4.25	4.04	4.18
7 秋田中央高校の教育方針・目標は、わかりやすく伝えられている。	3.71	3.58	3.54	3.57	3.53	3.41	3.57	3.38	3.44
8 秋田中央高校は、保護者の期待にこたえている。	3.64	3.57	3.60	3.51	3.52	3.54	3.49	3.45	3.45
9 秋田中央高校は、家庭との連絡や意志疎通を積極的にに行っている。	3.48	3.45	3.42	3.36	3.35	3.40	3.26	3.23	3.25
10 秋田中央高校は、保護者の悩みや相談に対して適切に応じている。	3.39	3.44	3.45	3.44	3.35	3.44	3.33	3.29	3.39
11 子供の学習指導に関しては、適切な取り組みがなされている。	3.59	3.57	3.71	3.53	3.53	3.54	3.60	3.41	3.56
12 子供の進路指導に関しては、適切な取り組みがなされている。	3.51	3.56	3.76	3.58	3.48	3.66	3.55	3.44	3.64
13 子供の(整容や時間を守るといった)生活態度に対し、適切な指導がなされている。	3.65	3.64	3.67	3.64	3.70	3.59	3.77	3.61	3.64
14 子供の登下校時の安全指導に関しては、適切な指導がなされている。	3.56	3.49	3.58	3.54	3.61	3.47	3.62	3.53	3.65
15 部活動指導は充分に行われ、充実していると思う。	3.84	3.73	3.77	3.76	3.53	3.71	3.77	3.68	3.71
16 教育活動において、子供の人権が尊重されている。	3.81	3.71	3.67	3.67	3.59	3.58	3.66	3.63	3.58
17 個人情報の保護については、適切な配慮がなされている。	3.88	3.83	3.79	3.71	3.78	3.69	3.93	3.80	3.70
18 施設・設備面での環境整備を行っている。	-4.15	4.00	3.87	4.02	4.00	3.86	4.28	4.08	3.96
1～18項目の平均値	3.70	3.62	3.70	3.60	3.62	3.67	3.54	3.63	
*回収率(%)	91.4	91.7	83.9	96.7	98.5	92.7	95.7	90.5	89.5